

週刊 タバコの正体

つい先ごろ、厚生労働省が喫煙の健康影響に関する報告書「たばこ白書」をまとめたそうです。それによると、喫煙はガンだけではなく脳卒中や心筋梗塞、糖尿病などとの因果関係が“確実”にあると報告されています。同時に、腹部大動脈瘤や歯周病、妊婦の早産や胎児の発育遅延などにも確実に影響を与えているとされています。

そして、喫煙者本人だけではなく他人のタバコの煙を吸わされる受動喫煙においても、肺ガンや脳卒中、心筋梗塞などに確実に影響しており、年間約1万5千人が死亡しているとされています。

受動喫煙による年間死亡数の推計



■ 肺がん	2480人
■ 虚血性心疾患	4460人
■ 脳卒中	8010人
■ 乳幼児突然死症候群	70人
計	約1万5000人

(厚労省研究班による)

中日新聞 CHUNICHI Web から

私たちが暮らす日本では、下のポスターにあるように「家庭でも」・・・「職場でも」・・・「屋外でも」・・・「飲食店でも」・・・様々な場面で受動喫煙の危険が存在し、ごく普通に遭遇しています。

じつは「たばこ白書」では、この点についても触れています。

世界保健機関(WHO)が示す各国のタバコ対策に

おいて、日本は「受動喫煙からの保護」の項目が“最低”評価だったと報告されています。これはG7諸国のなかでは最悪だったそうです。

公共の場での「屋内全面禁煙」を法律で規制している国が49もあるのに、日本では「受動喫煙を防止するよう努めなければならない」という努力義務が課せられているだけなのです。

タバコの煙やニオイに無関心な日本は、世界から遅れをとっています。

この遅れを取り戻し、タバコ臭くない健康面で安全な日本を作るのは、将来を担う君たちの意識と行動にかかっています。

産業デザイン科 奥田 恭久

